



山羊さん共同研究 2016

地域企業としてのこれから

山羊さん除草隊（有）FRUSIC

2年目 「こうなればいいなあ」希望的発想でスタート

3年目 「これをやろう」具体的目標を掲げてスタート

2014年2月 第1回報告会
(1年目を終え2年目へ向けて)

2015年2月 第2回報告会
(2年目を終え3年目へ向けて)

抽象的な表現

具体的な目標



- | | | |
|-----------|-----|----------|
| 1. 絵本への賛同 | ... | 製品 |
| 2. 市道の刈り草 | ... | 除草と製品 |
| 3. 高校との連携 | ... | 教育と製品 |
| 4. 教育への展望 | ... | 癒しと教育 |
| 5. PR方法模索 | ... | 集客(イベント) |

3年目 2015年を振り返ってみると・・・

- | | | | |
|-----------|---|---|----------------|
| 1. 絵本への賛同 | → | × | 構想はあるものの進展なし |
| 2. 市道の刈り草 | → | × | 展開するまでには至っていない |
| 3. 高校との連携 | → | ▲ | 置土産から手土産プロジェクト |
| 4. 教育への展望 | → | ▲ | 環境教育と情操教育 |
| 5. PR方法模索 | → | ○ | 稲わらアート |

では、どうして「×▲○」の違いは？ その意味は？

3年目の×は、ただの×ではありません

なぜ？どうして？

山羊さん共同研究をやっているのか？

理解者を増やす活動

その準備をしていました

例えば …… ロケット(気象衛星)を飛ばす

例えば、気象衛星を飛ばし、その気象衛星から得たデータを解析することで、
天気予測ができるようになり、天気予報の恩恵を私たちは得ることができます。

つまり、データを活用して初めて気象衛星を飛ばした成果となります。

また、気象衛星を飛ばす資金は、税金によって賄われていますが、その資金を
得るには、理解者を増やすことが大切です。そして、理解者から頂いた資金で、
気象衛星を作り、燃料を充填して宇宙へ飛ばせます。

継続するためには、そうした資金で技術者を育てなければなりません。



山羊さんの共同研究をする

山羊さんの研究 ➡ ○○が生まれる ➡ その恩恵を受ける

活動の継続には、資金と人材が当然欠かせないキーポイントです。

それには、理解と共感を得ることが大前提です。

理解と共感を得るには、PR活動がとても重要です。また、その結果を求められるため、地道なPR活動を継続していく必要があります。

PR活動の1つとして“稲わらアート”制作



山羊さん除草隊を知ってもらおうと、日本昭和村の協力を得て、昨年10月末、4mの巨大山羊さんを稲わらで制作しました。設計及び制作指導は、武蔵野美術大学の宮島先生によります。「わらアートチーム・ぎふ」を結成し、里山アートと連動して進められました。

お披露目当日には、加茂農林高校生物工学科の生徒たちが作ったスイートポテト（置土産から手土産プロジェクト）が配られました。

こうしたイベントは、農作物や関連したスイーツを、販売できる場を作り出すことができます。

研究データと直接関係ないけれど・・・

例えば

山羊さんの糞尿

山羊さんの糞尿を肥料として畑でサツマイモを育てます
サツマイモを使って、スイーツを作ります

そう考えると

山羊さんがいると

獣医さんのお仕事が増えます

サツマイモを作る農家さんのお仕事生まれます

ケーキ屋さんやデザインの仕事も・・・

山羊さんの置土産から手土産プロジェクト始動

学んだ知識を活かす場所 職業の選択肢につながります

エントランスに展示されたものを見てください

テーマ 「感じる」「学ぶ」「働く」「繋げる」

成果には、すぐに結果が伴うものもあれば、時間がかかるものもあります。

☆ Point

経済循環

自立

継続

比較的短いスパンで結果を求める必要がある

環境循環

教育

共生

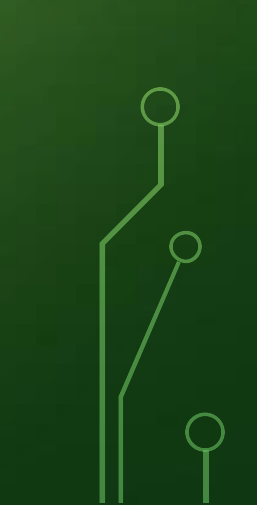
比較的長いスパンで結果を見る必要がある



山羊さんによる**研究**をどう活用するか？

研究から得た数値的なデータだけを

単純に成果だと思っていないですか？



後半戦（ 2016年と2017年 ）の展望

2017年11月 全国山羊サミット「ぎふ」開催

絵本 市道の刈り草利用 置土産から手土産プロジェクトの発展 稲わらアートの継続とイベント参加

余談ですが・・・

農 村 振 興



耕作放棄地対策 鳥獣被害対策 担い手不足対策

山羊さんの取組みは、対策ではなく解消が目的

対策費用の自由度